保育入門（五）

幼稚園教育の顧慮

倉橋 憲三

五、幼稚園教育の顧慮

幼稚園教育が不適に顧慮しなければならぬこと

一、身体の健全なる発達

一、身体の健全なる発達

二、保育入門の顧慮

三、個性の保存

三、個性の保存

幼児の身体は、一方に於ては非常に盛なる発達力を有して居るが、又、一方に於ては、骨格筋肉等の発達が未だ充分に完成して居ないために、種々なる発達障害を被り易い。発達力の盛であるとい

三、個性の保存

幼児の身体は、一方に於ては非常に盛なる発達力を有して居るが、又、一方に於ては、骨格筋肉等の発達が未だ充分に完成して居ないために、種々なる発達障害を被り易い。発達力の盛であるとい

満されて居る発達病にかいつても、非常なる早くなる

満されて居る発達病にかいつても、非常なる早くなる
障害のない方からいえば、年齢の進んだならばならない。しかもその注意と共に、幼稚園

従って、生活自制の発達に最も積極的な責任を

心に関することは、直接に幼稚園の責任とする処

又幼稚園自らが如何ともしなければならない

範囲に属することである。勿論、万一之等の點

には、幼稚園はその教育上の権威と親切とから、懸

仮令は、衣服の清潔に就て、或は帽子靴等の注意

に就て、或は料理に関する注意等に就て、幼稚園は

世には、幼稚園の教育の全體を教育上の利益以

外に出でないので、他の位置を考えて居るものである。しか

し、他の如何なる目的を有して居るものである。しか

う、神経系統の養護

身体の健全なる発達を一丸たちとも犠牲にするの

いない影響を有するものであるが、精神生活の健

（285）
全不健全の上に最直接なる基礎的関係を有するものがあれば、それは実にむしろ大事と言わざるを得ない。何となれば、神経系全体が薄弱になり、甚しくは病的に、神経系の全体が薄弱になる。意志も不健全になる、言ひれば性格全体が薄弱になり、甚しくは病的に、神経系の薄弱は一層憂ふべきことである。神経系の薄弱は一層憂ふべきことである。

然らに幼児期はその神経系の発達が未だ充分でない為に、一寸したことによって障害を受けて、筋肉に疲労を與へたりする様の類のことは、いづれも可Enumsな神経系に障害を與へ易い。筋肉に疲労を與へたりする様の類のことは、いづれも可 Enumsな神経系に障害を與へ易い。

但し、神経系の養護、身体と同様、幼児期に於て、適量なる鍛錬の必要がある。若し其の鍛錬が不十分で、過度の興奮をさせたり、過度の驚きを與へたりする様の類のことは、いづれも不可 Enumsな神経系に障害を與へ易い。筋肉に疲労を與へたりする様の類のことは、いづれも不可 Enumsな神経系に障害を與へ易い。

以上二つの願慮とは少しく方面を異にするが、教育上の一個の理想標準か、若し幼児の生を養育するにあたっては、幼児の生活を一およびし、大に願慮すべき要點である。素より如きこともあり、大に願慮すべき要點である。素より如きこともあり、大に願慮すべき要點である。素より

(286)